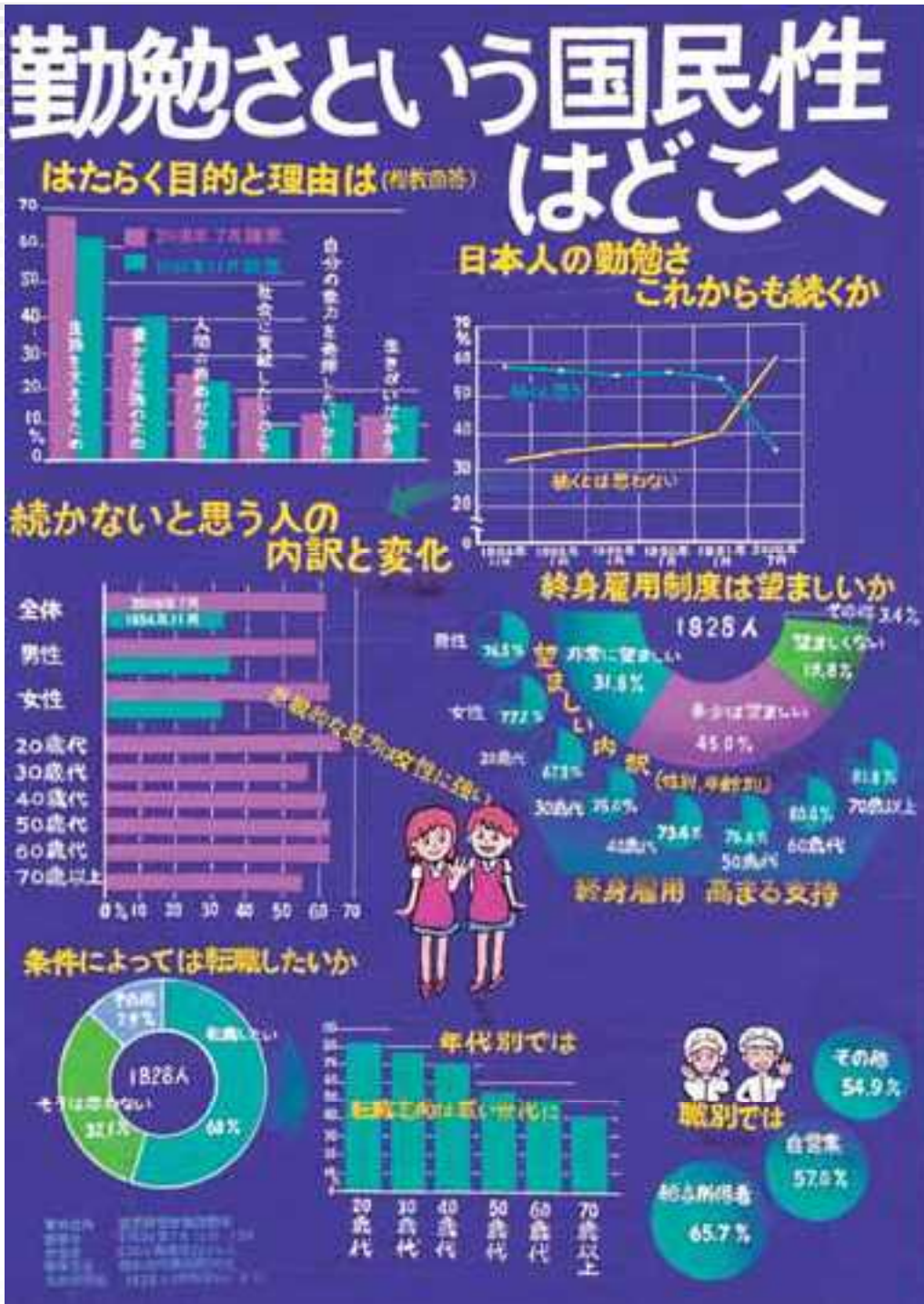




統計いばらき

11

- 統計の窓…茨城県景気ウォッチャー調査結果の推移について
平成20年度茨城県の児童・生徒の体格と疾病について
- 調査から…茨城県景気ウォッチャー調査結果(平成21年9月調査)
茨城県県民経済計算四半期速報(平成21年4~6月期)



目 次

統計の窓	茨城県景気ウォッチャー調査結果の推移について……………	1
	平成20年度茨城県の児童・生徒の体格と疾病について……………	2
調査から	茨城県景気ウォッチャー調査結果（平成21年9月調査）……………	5
	茨城県県民経済計算四半期速報（平成21年4～6月期）……………	10
今月の主な動き	……………	11
主要経済指標	……………	13
人口		
1	人口・世帯……………	16
金融		
2	金融機関別実質預金・貸出残高……………	17
3	県内金融経済……………	17
労働		
4	産業別現金給与総額……………	18
5	産業別月末常用労働者数……………	18
6	産業別総実労働時間数……………	19
7	職業紹介状況……………	19
家計・物価		
8	家計主要指標（水戸市・全国）……………	20・21
9	実収入及び実支出……………	20・21
10	消費者物価指数（水戸市）……………	22・23
農業		
11	農水産物の平均販売価格……………	22・23
鉱工業・エネルギー		
12	鉱工業指数（季節調整済指数）	
	（1）生産指数……………	24・25
	（2）出荷指数……………	24・25
	（3）在庫指数……………	26・27
	13 鉱工業指数（季節調整済指数）	
	14 鉱工業指数（季節調整済指数）	
	15 大口電力使用量……………	26
	16 石油製品販売量……………	27
	建築	
	17 建築主別建築着工……………	28
	18 着工新設住宅……………	28
	企業経営・文化	
	19 企業倒産状況……………	29
	20 文化施設利用状況……………	29
	生活・福祉	
	21 消費生活相談……………	30
	22 生活保護……………	30
	23 自殺者数……………	30
	安全	
	24 交通事故発生件数……………	31
	25 自動車保険請求相談……………	31
	26 刑法犯罪発生件数……………	32
	27 火災発生件数……………	32
新着資料案内	……………	33

利用にあたって

- | | |
|---|---------------------------|
| 1 統計表のうち、年度は会計年度（4月から翌年3月）、年は暦年（1月から12月）の数字を示します。 | 3 統計表で用いている記号の意味は次のとおりです。 |
| 2 数値は四捨五入してあるので、数値とその内訳を合計したものが一致しない場合があります。 | — 零または該当数字のないもの |
| | 0 該当数字が掲載単位未満のもの |
| | p 暫定数字 |
| | r 訂正数字 |
| | △ 減少または出超 |

茨城県景気ウォッチャー調査結果の推移について

本県では、景気ウォッチャー調査を平成14年12月から実施しております。今回、調査開始時からの現状判断DI※及び先行き判断DI※の推移をまとめましたので報告します。

1 調査の目的

- ・経済の第一線で働いている人々から、景気に関する生の情報を得ます。
- ・景気に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに、迅速に公表します。
- ・県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料となります。

2 調査の概要

- ・調査客体数…県内各地域（県北，県央，鹿行，県南，県西）ごとの60名，計300名です。
- ・調査内容…景気の実況，先行き判断とその判断理由を質問します。
- ・調査時期…四半期（6，9，12，3月）ごとに実施し，翌月公表します。

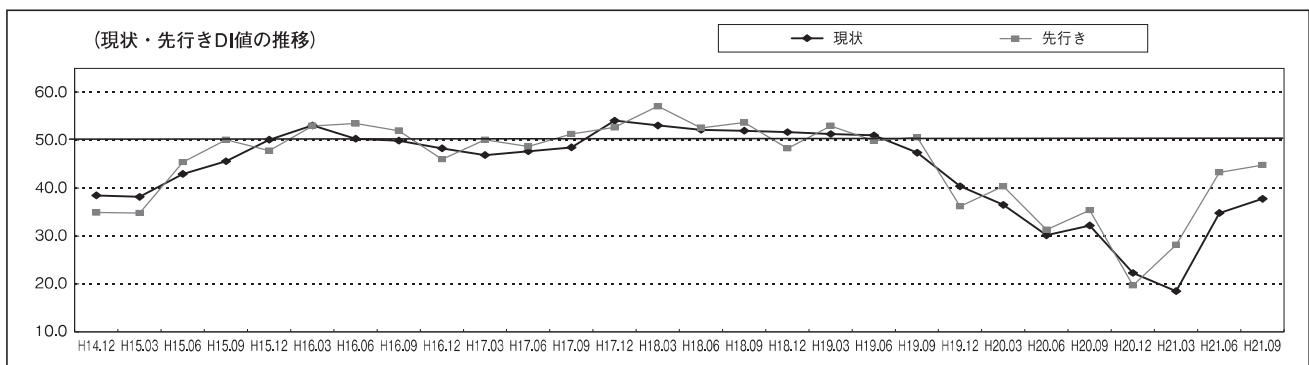
※DI（Diffusion Index）…景気動向を判断するために使用される指標の一つであり、景気の方角性（景気が上向きか下向きか）をみるもので、50が横這いを表しています。

よって、DIが50を上回れば前回調査時よりも景気は上向き、下回れば前回調査時よりも景気は下向きであることを示します。

3 調査結果の推移について

- ・現状判断DIについては、平成15年12月調査時に調査開始以来初めてDIが50を超え、平成16年6月調査までその水準を維持したものの、平成16年9月調査時に再び50を下回り景気は後退局面となりました。平成17年12月調査時には、DIは過去最高値の54.1となり、その後平成19年6月調査時まで50を上回り景気は上昇局面となりました。その後、DIは後退を続け平成21年3月調査時には、DIは過去最低値の18.5となり、最新の平成21年9月調査時では37.8となっています。
- ・先行き判断DIについては、平成15年9月調査時に調査開始以来初めてDIが50を超え、平成19年9月調査時までほぼ横這いで推移してきましたが、平成19年12月調査時に36.2を記録し後退局面を向かえ、平成20年12月調査時には過去最低値となる19.7を記録しました。その後も停滞局面を抜け出せず、最新の平成21年9月時の調査では44.8となっています。

	H14.12	H15.03	H15.06	H15.09	H15.12	H16.03	H16.06	H16.09	H16.12	H17.03	H17.06	H17.09	H17.12	H18.03	H18.06	H18.09	H18.12	H19.03	H19.06	H19.09	H19.12	H20.03	H20.06	H20.09	H20.12	H21.03	H21.06	H21.09	最大値	最小値	
現状	38.5	38.2	43.0	45.6	50.1	53.1	50.3	49.9	48.3	46.9	47.7	48.5	54.1	53.1	52.2	52.0	51.7	51.3	51.0	47.4	40.4	36.5	30.2	32.2	22.3	18.5	34.8	37.8	54.1	18.5	
先行き	34.9	34.8	45.4	50.1	47.8	53.0	53.5	52.0	46.0	50.1	48.7	51.3	52.7	57.1	52.6	53.7	48.3	53.0	49.9	50.6	36.2	40.4	31.3	19.7	28.2	43.3	44.8	57.1	19.7		
主な出来事		イラク戦争開戦			第二次小泉内閣発足	鳥インフルエンザ発生				愛知万博開幕		衆議院選挙で自民党大勝(郵政選挙)				安倍内閣発足	景気拡大が「いざなぎ景気」超え			福田内閣発足	景気が後退局面へ			麻生内閣発足	米リーマン・ブラザーズ破綻	GDPが戦後最大のマイナス成長	日経平均株価が戦後最大値を更新	衆議院選挙で民主歴史的圧勝	鳩山内閣発足		





平成20年度 茨城県の児童・生徒の体格と疾病について

I 調査の概要

学校保健統計調査は、学校における児童、生徒及び幼児（以下、「児童等」という。）の発育及び健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的とし、平成20年4月1日から6月30日までの間に実施された学校保健法による健康診断の結果に基づき調査しています。

1 調査の範囲

小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び幼稚園のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下、「調査実施校」という。）171校を調査します。

2 調査の対象

満5歳から満17歳までの児童等の一部（抽出調査）。

- ・発育状態……調査実施校に在籍する児童等のうちから年齢別男女別に抽出された者
- ・健康状態……調査実施校に在籍する全児童生徒

3 調査事項

(1)児童等の発育状態

身長、体重、座高

(2)児童等の健康状態

栄養状態、脊柱・胸郭の疾病・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽喉頭疾患・皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の有無、心臓の疾病・異常の有無、尿、寄生虫卵の有無、その他の疾病・異常の有無、結核に関する検診の結果

II 調査結果の概要

〈A 発育状態〉

1 身長・体重・座高の茨城県平均値

(1)身長

男子の身長は、6歳、8～11歳、13～15歳で前年度より伸びている。各年齢間の身長差は、12歳と13歳の間が7.0cmと最も大きく16歳と17歳の間が0.9cmと最も小さくなっています。なお、11歳の145.9cmは過去最高となっています。

女子の身長は、6～7歳、9歳、14～15歳、17歳で前年度より伸びています。各年齢間の身長差は、8歳と9歳の間が6.6cmと最も大きく、15歳と16歳の間が0.1cmと最も小さくなっています。

また、9歳で0.2cm、10歳で1.0cm、11歳で0.8cm、女子の身長が男子の身長を上回っています。

(表1)

表1 男女別年齢別 身長（平均値）—茨城県

(単位：cm)

区 分	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男	20年度	110.7	117.1	122.5	128.4	133.8	139.3	145.9	152.6	159.6	165.4	168.7	169.7
	19年度	111.0	116.7	123.0	128.3	133.7	138.8	145.2	153.0	159.5	165.2	168.4	170.0
	差	△0.3	0.4	△0.5	0.1	0.1	0.5	0.7	△0.4	0.1	0.2	0.3	△0.3
女	20年度	109.7	115.9	121.6	127.4	134.0	140.3	146.7	151.9	154.6	156.7	157.3	157.4
	19年度	110.0	115.3	121.3	127.6	133.7	140.7	147.3	152.2	154.9	156.2	157.1	158.2
	差	△0.3	0.6	0.3	△0.2	0.3	△0.4	△0.6	△0.3	△0.3	0.5	0.2	△0.8

(2)体 重

男子の体重は、6歳、8～11歳、13歳、で前年度より増えています。各年齢間の体重差は、14歳と15歳の間が5.7kgと最も大きく、16歳と17歳の間が0.8kgと最も小さくなっています。

女子の体重は、6～7歳、9歳、11歳、14～15歳、17歳で前年度より増えています。各年齢間の体重差は、10歳と11歳の間が6.0kgと最も大きく、16歳と17歳の間が0.6kgと最も小さくなっています。

また、11歳では0.3kg、女子の体重が男子の体重を上回っています。(表2)

表2 男女別年齢別 体重(平均値)ー茨城県

(単位: kg)

区 分	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
男	20年度	19.4	21.9	24.5	28.1	31.7	35.2	40.4	45.4	50.1	55.3	61.0	62.6	63.4
	19年度	19.6	21.6	24.8	27.9	31.2	34.7	39.1	45.5	49.8	55.4	61.2	62.7	64.2
	差	△0.2	0.3	△0.3	0.2	0.5	0.5	1.3	△0.1	0.3	△0.1	△0.2	△0.1	△0.8
女	20年度	19.0	21.6	23.8	26.8	31.2	34.7	40.7	45.2	47.9	50.9	52.9	53.6	54.2
	19年度	19.2	20.9	23.4	27.0	30.5	35.2	39.9	45.3	48.0	50.6	52.3	54.4	53.8
	差	△0.2	0.7	0.4	△0.2	0.7	△0.5	0.8	△0.1	△0.1	0.3	0.6	△0.8	0.4

(3)座 高

男子の座高は、6歳、8～11歳、14歳で前年度より伸びています。各年齢間の座高差は、13歳と14歳の間が3.6cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.7cmと最も小さくなっています。

女子の座高は、6～9歳、14歳、17歳で前年度より伸びています。各年齢間の座高差は、10歳と11歳の間が3.4cmと最も大きく、14歳と15歳、15歳と16歳の間が0.1cmと最も小さくなっています。

また、10歳で0.9cm、11歳で1.2cm、12歳で0.7cm、女子の座高が男子の座高を上回っています。

(表3)

表3 男女別年齢別 座高(平均値)ー茨城県

(単位: cm)

区 分	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
男	20年度	62.0	65.1	67.8	70.5	73.0	75.1	78.2	81.3	84.7	88.3	90.1	90.9	91.6
	19年度	62.2	64.9	67.8	70.4	72.6	74.8	77.8	81.7	84.9	88.2	90.1	91.0	91.7
	差	△0.2	0.2	-	0.1	0.4	0.3	0.4	△0.4	△0.2	0.1	-	△0.1	△0.1
女	20年度	61.5	64.6	67.4	70.1	73.0	76.0	79.4	82.0	83.6	84.9	85.0	85.1	85.6
	19年度	61.6	64.2	67.1	70.0	72.8	76.3	79.7	82.4	83.9	84.8	85.2	85.5	85.4
	差	△0.1	0.4	0.3	0.1	0.2	△0.3	△0.3	△0.4	△0.3	0.1	△0.2	△0.4	0.2

2 全国値との比較

身長を全国平均値と比較してみると、男子は6歳、8～11歳、15歳で、女子は6歳、9歳、14歳で全国平均以上になっています。

体重は、男子・女子とも各年齢で全国平均以上になっています。

座高は、男子は6～11歳、14歳で、女子は7～9歳、11歳で全国平均以上になっています。(表4)

表4 男女別年齢別 体格(平均値)〔全国値との比較〕

区 分	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
身長 (cm)	茨城県	110.7	117.1	122.5	128.4	133.8	139.3	145.9	152.6	159.6	165.4	168.7	169.7	170.6
	全国	110.8	116.7	122.5	128.2	133.7	138.9	145.3	152.6	159.8	165.4	168.3	170.0	170.7
	差	△0.1	0.4	-	0.2	0.1	0.4	0.6	-	△0.2	-	0.4	△0.3	△0.1
体重 (kg)	茨城県	19.4	21.9	24.5	28.1	31.7	35.2	40.4	45.4	50.1	55.3	61.0	62.6	63.4
	全国	19.1	21.5	24.2	27.3	30.8	34.3	38.8	44.5	49.5	54.9	59.8	61.6	63.4
	差	0.3	0.4	0.3	0.8	0.9	0.9	1.6	0.9	0.6	0.4	1.2	1.0	-
座高 (cm)	茨城県	62.0	65.1	67.8	70.5	73.0	75.1	78.2	81.3	84.7	88.3	90.1	90.9	91.6
	全国	62.1	65.0	67.7	70.3	72.8	75.0	77.8	81.4	85.0	88.2	90.2	91.2	91.7
	差	△0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.4	△0.1	△0.3	0.1	△0.1	△0.3	△0.1
座高 (cm)	茨城県	61.5	64.6	67.4	70.1	73.0	76.0	79.4	82.0	83.6	84.9	85.0	85.1	85.6
	全国	61.6	64.6	67.3	70.0	72.8	76.0	79.3	82.2	83.8	84.9	85.4	85.6	85.8
	差	△0.1	-	0.1	0.1	0.2	-	0.1	△0.2	△0.2	-	△0.4	△0.5	△0.2

〈B 健康状態〉

1 むし歯（う歯）のある者の割合

むし歯のある者の割合（処置完了者を含む。以下同じ。）は、幼稚園52.9%，小学校69.5%，中学校61.6%，高等学校70.5%となっています。

前年度と比較すると、すべての各学校段階で前年度より低下していますが、すべての学校段階で罹患率が最も高い疾病・異常となっています。

全国と比較すると、すべての学校段階で全国平均を上回っており、幼稚園は2.6ポイント、小学校は5.7ポイント、中学校は5.6ポイント、高等学校は5.0ポイント全国平均を上回っています。

2 裸眼視力1.0未満の者の割合

裸眼視力1.0未満の者の割合は、小学校26.9%，中学校51.2%となっており各学校段階の疾病・異常でむし歯に次いで上位を占めています。

前年度と比較すると、小学校、中学校では前年度より上昇しています。

全国と比較すると、小学校は3.0ポイント、中学校は1.4ポイント全国平均を下回っています。

年齢別にみると、1.0未満の者の割合が年齢が進むにつれて高くなり、それに伴い0.3未満の者の割合も高くなっています。

3 鼻・副鼻腔疾患の者の割合

鼻・副鼻腔疾患の者の割合は、幼稚園0.8%，小学校5.5%，中学校5.5%，高等学校2.7%となっています。

前年度と比較すると、幼稚園は前年度より低下しているが、小学校、中学校、高等学校とも前年度より上昇しています。

全国と比較すると、すべての学校段階で全国平均を下回っています。

年齢別にみると6歳が7.3%と最も高くなっており、6～15歳の各年齢で4%を超えています。

4 ぜん息の者の割合

ぜん息の者の割合は、幼稚園2.2%，小学校4.0%，中学校2.9%，高等学校1.7%となっています。

前年度と比較すると、高等学校では前年度より上昇しています。

全国と比較すると、小学校は0.1ポイント全国平均を上回っており、幼稚園は0.5ポイント、中学校と高等学校は0.1ポイント全国平均を下回っています。

年齢別にみると、6歳が4.8%と最も高くなっており6～12歳の各年齢で3%を超えています。

表5 学校別段階 主な疾病・異常の者割合 (%)

区 分	むし歯の者の割合			裸眼視力1.0未満の者の割合			鼻・副鼻腔疾患の者の割合			ぜんそくの者の割合			
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
幼稚園 (5歳)	茨城県	52.9	53.4	52.3	X	X	X	0.8	0.8	0.9	2.2	3.1	1.2
	全 国	50.3	51.3	49.2	28.9	28.2	29.7	3.8	4.6	3.0	2.7	3.4	1.9
	差	2.6	2.2	3.1	△3.0	△3.8	△2.1	△0.5	△0.3	△0.7
小学校	茨城県	69.5	71.0	67.9	26.9	23.3	30.7	5.5	6.8	4.1	4.0	4.8	3.0
	全 国	63.8	65.2	62.3	29.9	26.9	32.9	11.9	14.7	9.0	3.9	4.8	3.0
	差	5.7	5.8	5.6	△3.0	△3.6	△2.3	△6.4	△7.8	△4.8	0.1	0.0	0.0
中学校	茨城県	61.6	60.0	63.2	51.2	45.3	57.5	5.5	6.5	4.5	2.9	3.6	2.1
	全 国	56.0	54.0	58.1	52.6	48.1	57.3	10.8	12.5	9.1	3.0	3.5	2.4
	差	5.6	6.1	5.1	△1.4	△2.8	0.2	△5.3	△6.0	△4.6	△0.1	0.1	△0.3
高等学校	茨城県	70.5	68.8	72.4	X	X	X	2.7	3.1	2.3	1.7	2.0	1.5
	全 国	65.5	63.4	67.7	58.0	53.7	62.4	8.8	10.0	7.6	1.8	2.0	1.6
	差	5.0	5.4	4.7	△6.1	△6.9	△5.2	△0.1	0.0	△0.1

「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人（5歳は50人）未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

5歳、15～17歳は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人（5歳は50人）未満または回答校が1校以下で、統計数値を公表していないため表示していない。

詳しい情報は、いばらき統計情報ネットワーク <http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/> でご覧いただけます。

茨城県景気ウォッチャー調査結果 (平成21年9月調査)

調査の目的

- ・ 経済の第一線で働いている方々から、景気に関する生の情報を得ます。
- ・ その景気に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに、迅速に公表します。
- ・ 県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料となります。

調査の概要

- ・ 調査客体数…県内5地域（県北，県央，鹿行，県南，県西）ごとに60名，計300名です。
- ・ 調査内容…景気の現状及び先行きの判断（「良」「やや良」「変わらない」「やや悪」「悪」の5つから選択）とその判断理由（コメント）を質問します。
- ・ 調査時期…四半期（6，9，12，3月）ごとに実施し，翌月公表します。

調査結果の概要

（〔調査期間：平成21年9月1日～9月30日〕，〔回答率：97.0%（300名中291名より回答）〕）

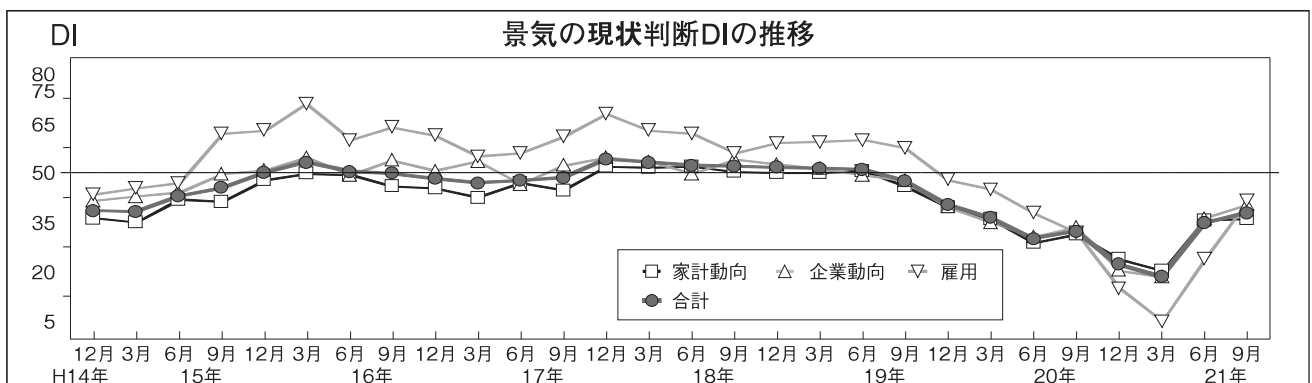
- ◆ 全体の現状判断DIは37.8となり前期（平成21年6月）比3.0ポイント上昇し，また先行き判断DIも44.8と前期比1.5ポイント上昇しましたが，横ばいを表す50は下回りましたので，引き続き景気は下降局面にあります。

〔【参考】これまでの最低値 現状判断DI 平成21年3月の18.5
先行き判断DI 平成20年12月の19.7〕

- ◆ 地域別の現状判断DIは，県南地域を除くすべての地域で上昇しましたが，横ばいを表す50は下回りました。

景気現状判断DI			景気先行き判断DI			(注)「変化傾向」の説明：DI値50超 \blacktriangleright DI値50 \rightarrow DI値50未満 \blacktriangleleft
区分	()は前回調査との比較	変化傾向 (DI値50を基準)	区分	()は前回調査との比較	変化傾向 (DI値50を基準)	
県全体	37.8 (+3.0)	\blacktriangleright (9期連続)	県全体	44.8 (+1.5)	\blacktriangleright (8期連続)	※DI (Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つであり，景気の方向性（景気が上向きか下向きか）をみるもので，50が横ばいを表しています。 茨城県景気ウォッチャー調査では，回答を5つの区分ごとに点数で表し，その点数を回答構成比 (%) で乗じてDIを算出しています。
県北	35.4 (+2.8)	\blacktriangleright (10期連続)	県北	44.6 (+3.1)	\blacktriangleright (8期連続)	
県央	37.3 (+7.0)	\blacktriangleright (9期連続)	県央	41.9 (+0.7)	\blacktriangleright (9期連続)	
鹿行	36.8 (+3.6)	\blacktriangleright (8期連続)	鹿行	44.7 (+2.0)	\blacktriangleright (8期連続)	
県南	40.2 (-1.9)	\blacktriangleright (8期連続)	県南	45.1 (+0.4)	\blacktriangleright (8期連続)	
県西	39.4 (+3.6)	\blacktriangleright (9期連続)	県西	47.9 (+1.8)	\blacktriangleright (10期連続)	

【先行き判断DI (県全体)】



■調査から

分野	調査年月	平成20年 9月	平成20年 12月	平成21年 3月	平成21年 6月	平成21年 9月
合 計		32.2	22.3	18.5	34.8	37.8
家計動向関連		31.4	24.0	20.4	35.6	36.1
小 売 関 連		28.5	19.9	17.5	38.5	35.8
飲 食 関 連		30.0	25.0	26.4	31.6	36.3
サ ー ビ ス 関 連		34.5	28.4	21.3	33.8	35.3
住 宅 関 連		30.6	16.7	22.2	36.1	44.4
企業動向関連		33.7	20.6	18.5	36.3	40.5
農 林 水 産 業		40.6	40.6	21.9	37.5	46.9
製 造 業		35.6	17.6	18.5	35.6	40.8
非 製 造 業		29.0	20.2	17.7	37.1	38.3
雇 用 関 連		32.0	15.0	5.0	24.0	41.7

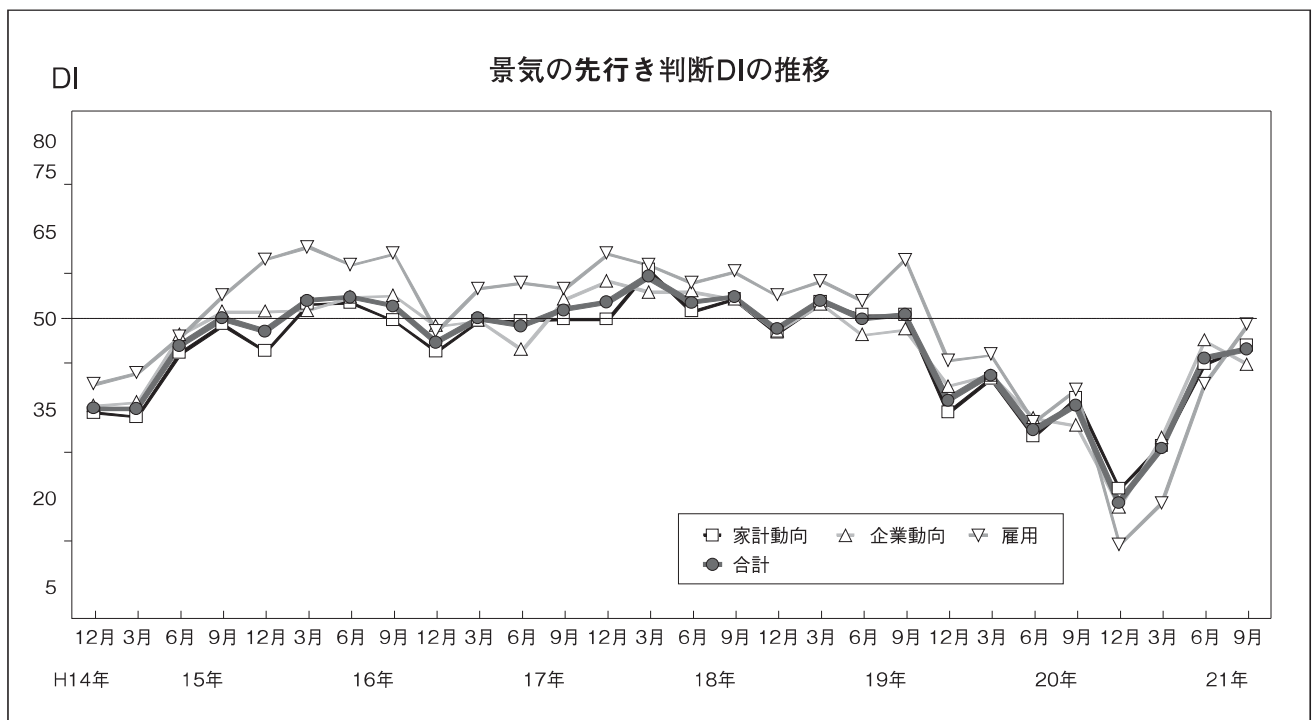
3か月前と比較した景気の現状判断DIは、前期（6月調査）比3.0ポイント上昇して**37.8**となりましたが、**横ばいを表す50を9期連続で下回りました。**

「家計動向関連DI」は、前期比0.5ポイント上昇しましたが、9期連続で50を下回りました。「企業動向関連DI」は、前期比4.2ポイント上昇しましたが、10期連続で50を下回りました。また、「雇用関連DI」は、前期比17.7ポイント上昇しましたが、8期連続で50を下回りました。

＜景気ウォッチャーの主なコメント＞

- ・生産が徐々に回復しているが、景気が良くなっているとは感じない。（製造業（鉄鋼業））
- ・不動産業界（住宅）に関しては好転する材料に欠けるため、しばらくは現状のまま推移すると考える。（不動産業）
- ・政府の経済危機対策で、一定の効果は出ていると思われるが、あまり変わっていないと感じられる。（製造業（窯業・土石製品））
- ・「景気が底を打ったのでは？」と言われて久しいと思うが、生活をしている中で景気が上向きになっていることが、依然、実感することができない。（建設業）
- ・今月から学生の就職活動が始まるが、求人数が去年と比べ、大幅に減少している。（学校就職関係者）
- ・仕事量の増加はみられず、求人するどころか雇用調整助成金を継続中の事業所が多い。（就職相談員）
- ・製造業以外では介護・福祉・医療関係の求人は獲得できるが、求職者が集まらず就職マッチングはかなり困難な状況である。（求人開拓員）

【先行き判断DI（県全体）】



分野	調査年月	平成20年 9月	平成20年 12月	平成21年 3月	平成21年 6月	平成21年 9月
合計		35.4	19.7	28.2	43.3	44.8
家計動向関連		36.7	21.4	28.6	42.4	45.5
小売関連		33.5	19.5	28.0	44.4	43.2
飲食関連		32.5	21.1	36.1	43.4	51.3
サービス関連		40.5	22.2	26.9	40.3	45.6
住宅関連		38.9	30.6	33.3	41.7	50.0
企業動向関連		32.0	18.3	30.0	46.4	42.3
農林水産業		46.9	28.1	53.1	59.4	53.1
製造業		30.3	18.1	32.1	43.9	39.7
非製造業		30.6	16.1	21.0	46.8	43.3
雇用関連		38.0	12.0	19.0	39.0	49.0

3か月先の景気の先行き判断DIは、前期（6月調査）比1.5ポイント上昇して**44.8**となりましたが、横ばいを表す50を8期連続で下回りました。

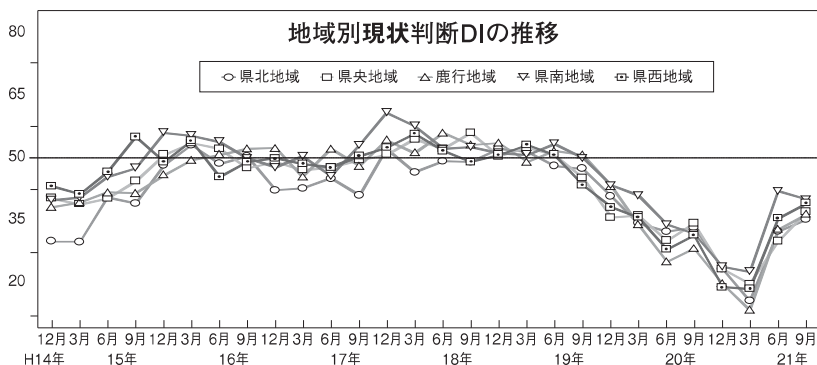
「家計動向関連DI」は、前期比3.1ポイント上昇しましたが、8期連続で50を下回りました。「企業動向関連DI」は、前期比4.1ポイント下落し、10期連続で50を下回りました。また、「雇用関連DI」は、前期比10.0ポイント上昇しましたが、8期連続で50を下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・やや良くなったという感じはあるが、横ばい状態でそれ以上の伸びは期待できない。（自動車販売店）
- ・客の購買意欲は、政治不安や将来への不安、経済不安などで非常に低下している。今後ともに厳しい状況が続くと思う。（コンビニエンスストア）
- ・新型インフルエンザ感染患者数が、これから増加傾向になると思われる季節であり、外出は大きく望めないと思われる。（専門スーパー）
- ・民間工事が極端に少なく、本格的な回復は来年春以降と思われる。（製造業（金属製品））
- ・今後の政策によりどのような影響が出るのか、不透明のため、予測は難しい。（建設業）
- ・製造業の中小企業では「未だ受注量回復の兆しが見えてこない」という声が多く聞かれる。（公共職業安定所）

【地域別の動向】

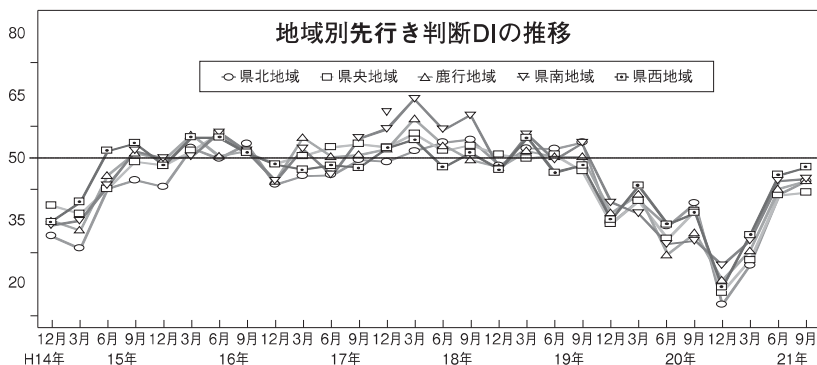
地域別の現状及び先行き判断DIは、全ての地域で横ばいを表す50を下回りました。



景気現状判断DI
【平成21年9月調査】

県全体	37.8 (+3.0)
県北地域	35.4 (+2.8)
県央地域	37.3 (+7.0)
鹿行地域	36.8 (+3.6)
県南地域	40.2 (-1.9)
県西地域	39.4 (+3.6)

※（ ）は前回調査（平成21年6月）との比較をしたものです。



景気先行き判断DI
【平成21年9月調査】

県全体	44.8 (+1.5)
県北地域	44.6 (+3.1)
県央地域	41.9 (+0.7)
鹿行地域	44.7 (+2.0)
県南地域	45.1 (+0.4)
県西地域	47.9 (+1.8)

※（ ）は前回調査（平成21年6月）との比較をしたものです。

■調査から

【県北地域】

- 1 現状判断：景気の現状判断DIは35.4となりました。前期比2.8ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を10期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・インフルエンザへの予防対策、危機管理対策の一環として、学校・企業共に団体旅行の中止・延期が出てきた。(旅行代理店)
- ・来場者数は前年比でプラス、3か月前と比較しても客足は良化している。しかし、価格面ではシビアな反応があり、500円位の差で良くも悪くもなり価格設定に苦慮している状況。(ゴルフ場)
- ・造林事業(下刈)作業が一段落し、これから素材生産が始まるが、なかなか一般素材の販売が思わしくない。(林業関係者)
- ・今月から学生の就職活動が始まるが、求人数が去年と比べ、大幅に減少している。(学校就職関係者)

- 2 先行き判断：景気の先行き判断DIは44.6となりました。前期比3.1ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を8期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・地元企業等在来の顧客の貨物量は減少しているものの、常陸那珂港に船が来るので、新たな需要で貨物量を回復出来ると見込んでいる。(運輸業)
- ・車産業界では、ECO自動車ブームによって多少は上昇機運が出てきているが、現実には、まだまだ厳しい状況が続くと話題が多い。(就職相談員)

【県央地域】

- 1 現状判断：景気の現状判断DIは37.3となりました。前期比7.0ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を9期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・売上高・来店客単価とも徐々に前年に近づいてきているが、まだ水準は低い。来店客数の減少傾向も変わらず。(百貨店、総合スーパー)
- ・車購入の減税補助金を受けて、購入、検討した客も一巡しているように感じる。購入車も小さなコンパクトカーになり売上がなかなか上がらない現状だ。(自動車販売店)
- ・入場者数も売上額も若干の伸びは見られるが、良くなっていると感じられるほどではない。栃木や埼玉など近距離の他県客は増加しているが、遠くからの客は少なく、県内の客も減少しているため、トータルでは変化は無い。(レジャー施設)
- ・商店街は人通りも少なく、売上不振が続いている状況である。貸テナントは埋まらず、テナント料金の安価な郊外への移転も多い。(金融業)

- 2 先行き判断：景気の先行き判断DIは41.9となりました。前期比0.7ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を9期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・発注工事が減少しているうえ、価格競争激化により、収益性の悪い工事を受注せざるを得ない状況が続くと思われる。(製造業(窯業・土石製品))
- ・改善すると思っている人は圧倒的に少ない。消費が活発になる見込みはなく、店主たちも現状維持がやっとの状態にあるため、街が活気づくことは予想しがたい。(金融業)
- ・雇用調整助成金を活用し、休業を実施中の事業所数が一向に減少しない。また、製造業の中小企業では「未だ受注量回復のきざしが見えてこない」という声が多く聞かれる。(公共職業安定所)

【鹿行地域】

- 1 現状判断：景気の現状判断DIは36.8となりました。前期比3.6ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を8期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・近くの工場では週休3日制になっている。ワークシェアリングを導入しているようだ。客も割引きの曜日を忘れず、10円、20円の値段を細かくチェックしている。(クリーニング店)
- ・冷夏のため、野菜類全般が不作である。特に、稲はかなりの打撃を受けている。本県の作況は平年並みとの事だが、信じ難い。(農業関係者)
- ・出荷量は、昨年比の約70%程度まで回復し、稼動も維持から上昇に転じてきた。しかし、未だコストに見合う価格にはなっておらず、量を維持しながらの価格交渉という厳しい状態が続いている。(製造業(化学工業))
- ・新築着工件数がかなり減少している。世の中が不景気なので家を建てる人が少ない。ボーナスの減少や給料が減少しているので、銀行の審査が通らないようだ。また、契約してもキャンセルも多いようだ。(建設業)

2 先行き判断：景気の先行き判断DIは44.7となりました。前期比2.0ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を8期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・今後出荷量を維持できるか、それとも稼働が落ちるような、事態になるかは現時点では読めない。原油価格や為替の動向も合わせると、非常に不透明である。(製造業(化学工業))
- ・自動車の需要がやや回復しつつあり、在庫調整も進んでいることから年度末に向けて回復していくものとする。(サービス業)
- ・民主党政権と連立政権に民間企業及び国民の立場からは、不安と先行きに対する動きに模様眺めの状況が続くと見られ大きな変化は見られないと思う。逆に生活不安から、さらに財布のヒモが固くならないかとの見方もあり、需要動向に注視している。(人材派遣業)
- ・来春の高校卒業予定者の就職内定率等は、昨年度より落ち込みが激しく、鹿島臨海コンビナートの企業においても、景気回復とは縁遠い話と思われる。(求人開拓員)

【県南地域】

1 現状判断：景気の現状判断DIは40.2となりました。前期比1.9ポイント下落し、横ばいを表す50を8期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・設備投資に関する相談がほとんど無く、景気が良くなっている実感は無い。(金融業)
- ・在庫調整で生産自体は一時再開しているという様な感じだけで伸びているという印象は受けない。(人材派遣業)
- ・各企業を訪問して景気が改善したという話は聞けない。反対に今まで影響の受けなかった企業がここに来て厳しくなると聞く。(求人開拓員)

2 先行き判断：景気の先行き判断DIは45.1となりました。前期比0.4ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を8期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・現時点では受注は増加傾向にあるが、メーカー側の輸出が回復しているため、国内の販売はそれほどでもない。いつ減産指示が来るのか不安な面もある。(製造業(非鉄金属))
- ・工場関係は選挙後増改修工事の先送り、または中止がみられ予定の仕事が減少しているため景気はやや悪くなると思う。(建設業(設備工事業))
- ・求人が減少する一方で、求職者が増加し、就職できない状況が続いている。企業でも今は雇用助成金で何とか雇用を維持しているが、今後は正規社員のリストラもありうるとの事を聞く。(求人開拓員)

【県西地域】

1 現状判断：景気の現状判断DIは39.4となりました。前期比3.6ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を9期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・昨年の9月に起きたサブプライムの景気悪化と比べ、景気は良くなってきている。2011年7月に修了となる地上アナログ放送から波及して、デジタル家電(液晶テレビ、DVDレコーダー)等が好調に売れている。(家電販売店)
- ・廃車を伴う新車購入補助金が今年度は底をつき全ての客に支給できないだろうという報道があり、波が引くように成約が減少した。(自動車販売店)
- ・デフレ傾向が止まらない。値段を下げる以外に受注の手段がなくなりつつある。(製造業(印刷・同関連業))
- ・政治も民主党に変わり、ごたごたしている中まだまだ景気は下降するばかりだ。(建設業)

2 先行き判断：先行き判断DIは47.9となりました。前期比1.8ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を10期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・政権交代による景気回復に期待したいが、すぐには見込めない。気になるのは、新型を含むインフルエンザの猛威・原油の高騰による外出控え。(ゴルフ場)
- ・製造業が少し上向きようだが、「この先不安」の声を聞くことが多い。(就職相談員)

公表日：平成21年10月13日

茨城県県民経済計算四半期速報 (平成21年4～6月期)

平成21年4～6月期の実質経済成長率はマイナス0.8%

茨城県における平成21年4～6月期の実質経済成長率は、対前期比（平成21年1～3月期比）-0.8%（年率換算で-3.1%）となり、5期連続のマイナスとなりました。

県内総生産（支出側）を項目別にみると、民間最終消費支出は対前期比+0.7%、公的固定資本形成は同+7.4%と増加しましたが、民間住宅投資は同-11.4%、民間企業設備投資は同-5.4%、政府最終消費支出は同-0.9%と減少しました。

実質 県内総生産（支出側・季節調整系列）

上段：実数（百万円） 下段：対前期比（%）

	平成20年度				平成21年度	構成比
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
民間最終消費支出	5,583,475 (-0.5)	5,608,237 (0.4)	5,616,656 (0.2)	5,663,940 (0.8)	5,703,042 (0.7)	53.8
民間住宅投資	386,829 (6.0)	367,140 (-5.1)	369,803 (0.7)	339,809 (-8.1)	301,054 (-11.4)	2.8
民間企業設備投資	1,685,388 (-1.0)	1,624,821 (-3.6)	1,514,635 (-6.8)	1,442,038 (-4.8)	1,363,725 (-5.4)	12.9
政府最終消費支出	2,036,108 (-0.5)	2,041,086 (0.2)	2,066,306 (1.2)	2,073,825 (0.4)	2,054,890 (-0.9)	19.4
公的固定資本形成	510,370 (-2.9)	502,958 (-1.5)	519,606 (3.3)	526,954 (1.4)	566,125 (7.4)	5.3
移出入等	1,035,129 *****	938,321 *****	729,311 *****	629,722 *****	604,225 *****	5.7
県内総生産 (支出側) 〈年率表示〉	11,237,299 (-0.4) 〈-1.5〉	11,082,563 (-1.4) 〈-5.4〉	10,816,316 (-2.4) 〈-9.3〉	10,676,287 (-1.3) 〈-5.1〉	10,593,062 (-0.8) 〈-3.1〉	100.0
(参考)国内総生産 (支出側) 〈年率表示〉	564,368,900 (-0.7) 〈-2.8〉	557,045,500 (-1.3) 〈-5.1〉	538,276,200 (-3.4) 〈-12.8〉	520,679,800 (-3.3) 〈-12.4〉	523,602,700 (0.6) 〈2.3〉	—

※国内総生産は、内閣府の平成21年4～6月期四半期別GDP速報（2次速報値）による。

利用上の注意

- この速報値は、回帰分析等の手法により作成したモデル式を、県民経済計算支出系列（県内総生産（支出側））の各項目に適用し、それぞれ関連の深い統計データにより四半期に分割・推計を行ったものです。
- 基礎資料の改訂等に伴って遡及修正されることがありますので、常に最新の公表値をご利用ください。

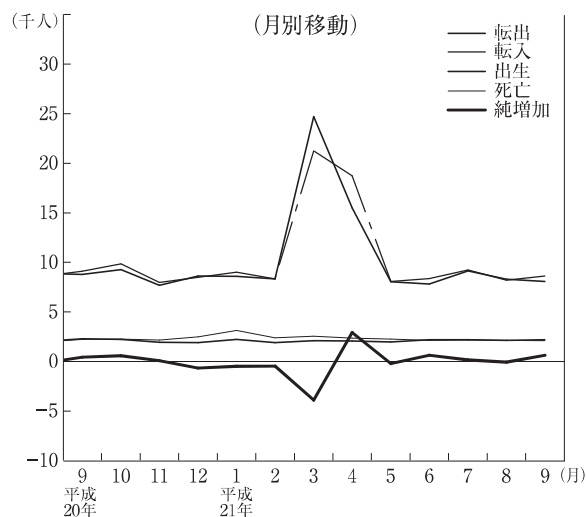
今月の主な動き

■人口 (21年10月1日現在)

9月の概況

推計人口 2,967,404人 (対前月 606人)
 (男 1,476,702人, 女 1,490,702人)
 〈内訳〉 自然動態 83人
 (出生 2,165人, 死亡 2,082人)
 社会動態 523人
 (転入 8,531人, 転出 8,008人)
 世帯数 1,088,732世帯 (対前月 997世帯)

人 口



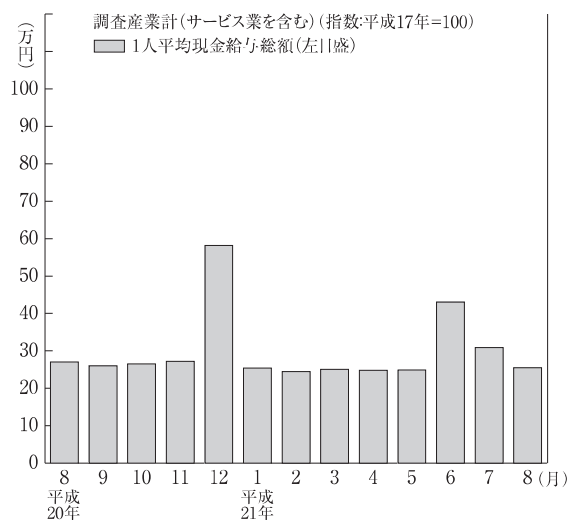
■賃金・労働時間・雇用 (21年8月)

現金給与総額 254,668円 (△3.1%)
 きまって支給する給与 243,457円 (△3.5%)
 特別に支払われた給与 11,211円

総実労働時間 138.6時間 (△ 5.4%)
 所定内労働時間 129.7時間 (△ 4.6%)
 所定外労働時間 8.9時間 (△16.5%)

※ 事業所規模5人以上, ()内は前年同月比。

賃金・労働時間・雇用



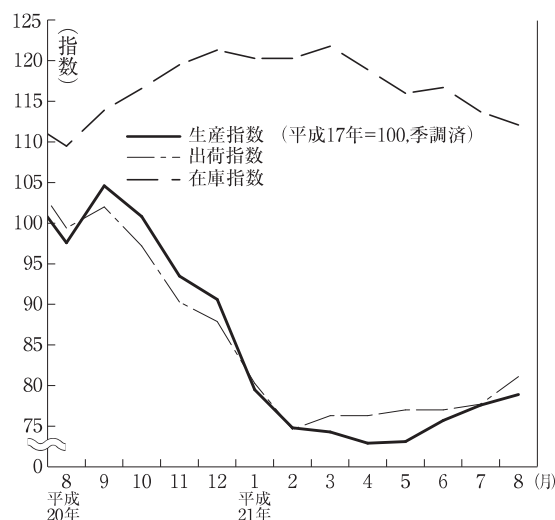
■鉱工業指数 (21年8月) (季調済, H17年=100)

生産 78.9 (前月比 1.7%, 前年同月比(原指数) △19.5%)
 上昇…化学工業, 鉄鋼業, 一般機械工業等
 低下…食料品・たばこ工業, プラスチック製品工業等

出荷 81.1 (前月比 4.4%, 前年同月比(原指数) △18.8%)
 上昇…一般機械工業, 化学工業, 電気機械工業等
 低下…食料品・たばこ工業, プラスチック製品工業等

在庫 112.1 (前月比 △0.7%, 前年同月比(原指数) 2.9%)
 上昇…鉄鋼業, 化学工業等
 低下…一般機械工業, 食料品・たばこ工業, 電気機械工業等

鉱工業指数〈生産・出荷・在庫〉

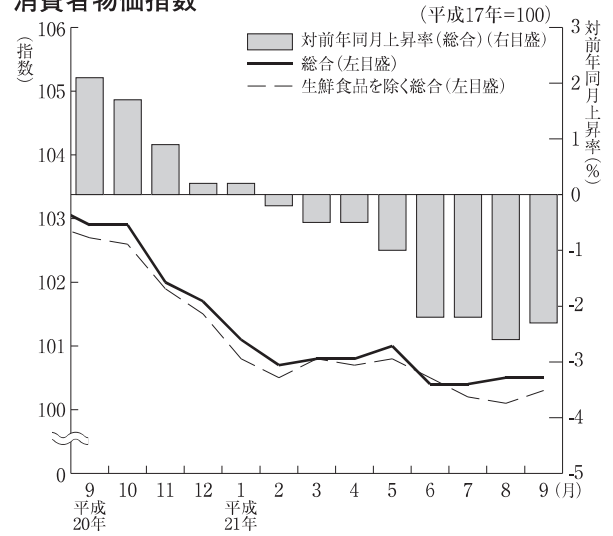


●今月の主な動き ●

■消費者物価指数 (21年9月) (県平均, H17=100)

総合 100.5 (前月比 0.0%, 前年同月比 △2.3%)
 上昇した項目…衣料, 家賃, シャツ・セーター・下着類など
 下落した項目…教養娯楽サービス, 生鮮魚介など
 生鮮食品を除く総合 100.3 (前月比 0.2%, 前年同月比 △2.3%)

消費者物価指数



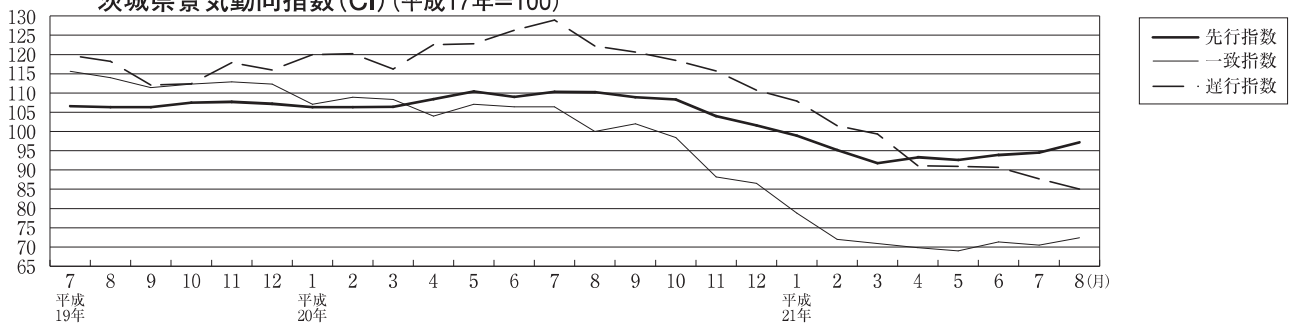
■費目別指数

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総合	100.5	0.0	△2.3	保健医療	101.7	△0.1	△0.8
食料	103.9	△0.9	△1.2	交通・通信	97.0	△0.1	△6.9
住居	99.8	0.4	△0.2	教育	104.9	0.0	1.7
光熱・水道	105.4	△0.4	△7.4	教養娯楽	95.2	△1.1	△3.0
家具・家事用品	92.1	0.0	△4.2	諸雑費	101.6	0.5	0.2
被服及び履物	101.5	4.9	△2.8	生鮮食品を除く総合	100.3	0.2	△2.3

(平成17年=100)

■景気動向指数 (21年8月)

茨城県景気動向指数(CI) (平成17年=100)

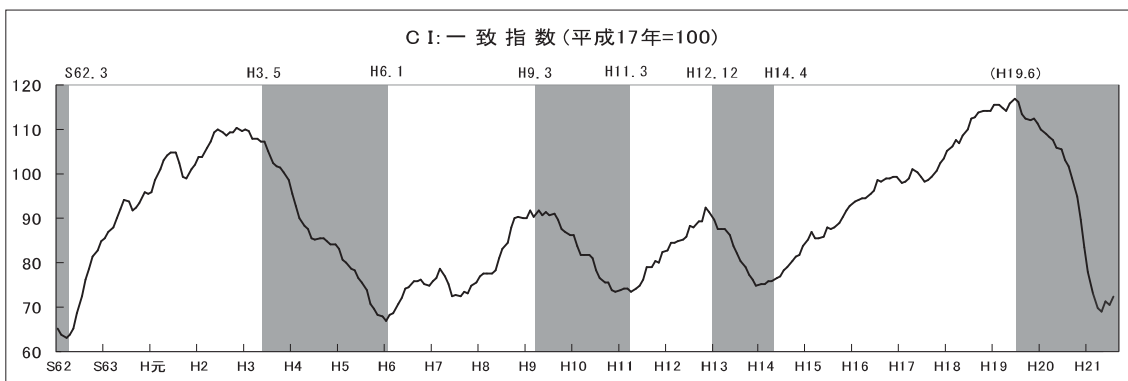


《CI (コンポジット・インデックス)》

先行指数 97.2 対前月比 2.8%上昇 対前年同月比 11.8%低下
 一致指数 72.4 対前月比 1.9%上昇 対前年同月比 27.2%低下
 遅行指数 85.0 対前月比 3.1%低下 対前年同月比 29.2%低下

平成21年8月のCI (平成17年=100) は、先行指数97.2、一致指数72.4、遅行指数85.0となりました。この結果、前月に比べ、先行指数が2.8%上昇、一致指数が2.7%上昇、遅行指数が3.1%低下しました。一方、対前年同月比でみると、先行指数が11.8%低下、一致指数が27.2%低下、遅行指数が29.2%低下しました。

茨城県景気動向指数 (CI一致指数, 3か月移動平均グラフ)



《DI (ディフュージョン・インデックス)》

先行指数 100.0% 18か月ぶり50%を上回りました。
 一致指数 85.7% 20か月ぶり50%を上回りました。
 遅行指数 28.6% 2か月ぶり50%を下回りました。